



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧師 : 杉村 幸 (日語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「海ナマズ」

最近読んだ関西聖書学院教師、真殿輝子氏の著書『祈りの糧「デイポジション」に、実に神の知恵たる「棘」の必要性を見させていただいた。ご紹介しよう。』

「一人の男が漁をして生計を立てていた。彼が漁を終えて岸に帰り着くと、いつも大勢の人々が魚を買いに集まって来る。他の漁師らの舟も同じ時に、同じ海で魚を獲って帰って来るのに、なぜか人々は他の漁師からよりも、この男から十倍の量の魚を買うのであった。他の漁師らは彼をねたましく思っていた。ある時、一人の漁師がこっそりこの男の舟に忍び込んで、獲った魚を保管する水槽をそっと開いて中を覗いて見た。すると水槽の中には、非常に大きな海ナマズが一匹いたのである。男はいつも海ナマズを水槽に泳がしていたのだった。そして獲れた魚をみなその水槽に入れていた。他の漁師らも獲った魚を彼らの水槽に保管していたのだが、漁を終えて岸に帰り着く頃までには、多くの魚が死んだいたり、ぐったりとしていた。ところが海ナマズのいる水槽では、海ナマズがしきりに魚を追いかけるので、魚は逃げまわり、数時間後に岸に帰り着いた時でも、魚はみな生き生きと新鮮なまままで生きていたのであった」

大きな口を空けて獲物を追い回す海ナマズが居たら、他の獲れた魚までもが喰い尽くされてしまうのではないかと危惧するのだが、実際はそうではなかった。却って、海ナマズによって、他の魚が逃げ回り、それによって体力が温存され、生きることになったのだ。それは無くてはならない大切な存在であった。パウロには肉体に棘があった。それは不自由な目、背中の湾曲、そして精神的な病であった。彼はこれに泣いた。それでは伝道にならないと思っただからだ。なぜ主がその棘を取ってくれないのかと悶々としていたある日、それは主に委ねるしかないと思ひ、導きを仰いだところ、「高慢にならないように、わたしの肉体に一つのとげが与えられた」(2コリント十二・7)のだと悟ったのである。

世界最高の学者であるパウロには、それが必要であった。棘によって彼は神の前にへりくだり、それによって神のみ業が現れ、人々が救われてゆくからであった。人生に高慢ほど嫌なものはない。これが少しでも見え隠れすると人は決して心を開かないからだ。ましてや、主の証しにこの謙遜は欠かせない。今まで嫌だと思っていた海ナマズの存在も、私たちに必要な神の知恵なのかも…。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウェスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

